

罪に定められていないことを知る方法

「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は心では神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。」（ローマ7:24,25; 8:1）

これらの言葉には、実践的な思想が込められています。そして、そこから多くの人を悩ませる疑問が生じます。

彼らは言います、「理屈ではすべて信じているし、キリストが罪から清めてくださることも知っています。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。しかし、問題は、果たして自分はすべての罪を告白したのだろうかということです。それさえ確かなら、その約束が自分のものであることを確信し、罪に定められることはないと信じることができます。」と。

私たちはどのようにして、自分は罪に定められることがないと知ることができるのでしょうか。もちろん、主が示してくださることはすべて告白してください。しかし、そこで止めてはいけません。それだけではなく、神がそれらの罪を赦してくださることを信じ、神の平安を心に受け取りましょう。そして、主が他の罪を示されたら、それも告白し、赦されたことを信じ、主の平安をそのまま保ってください。しかし、実直な人は、自ら自分の祝福を奪い、暗闇の中に自ら足を踏み入れてしまいます。なぜなら、罪を告白したときに、赦しを受け取らず、その後に得られるはずの自由を神に感謝しないからなのです。

自分で分かっている罪だけを告白しても、罪の宣告からの自由は与えられない、という考えは、神に対する重大な非難をもたらしています。それはまるで、主が許されるのは、最も記憶力の良い人だけであると言っているようなものです。しかし、それらの罪を思い出すことができたのは、あなたの記憶力によるだけだったのでしょうか。誰があなたの記憶をよみがえらせてくださったのでしょうか。それは神の御霊でした。それなのに私たちは、神のお働きは一部分でしかない、と非難するのでしょうか。神は、聖霊を遣わして、それらの罪を示してくださいました。私たちに明かされなかった部分の罪は、神が隠しておられるとでも言うのでしょうか。神は、私たちが告白すべき罪を示してくださいました。そして、それを告白したとき、私たちは神の御霊の心に出会い、自由になったのです。[1]

注釈

1. ワゴナー、世界総会報、1891, No.